

農業機械部会セミナー
 — 稲作用機械の国際比較 —

日 時：2015年3月10日（火）13:30～17:30
 会 場：（独）農研機構 生研センター 花の木ホール
 （さいたま市北区日進町 1-40-2）
 主 催：農業食料工学会
 協 賛：（独）農研機構 生研センター
 企 画：農業機械部会
 定 員：100名
 参加費：無料
 参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込みください。

- ①メールによる参加登録：nogyo-kikai-bukai@ml.affrc.go.jp
 （所属・農業食料工学会会員区分・氏名を明記の上で参加の旨をお伝えください）
 ②FAXによる参加登録：048-654-7135（下記申込みフォームに記入後送付）
申込みフォーム（FAX用）

| | |
|-------------|--------------|
| 所属 | |
| 農業食料工学会会員区分 | 正会員・学生会員・非会員 |
| 氏名 | |

開催概要：

農業機械部会では、水稲作を中心として2極化が進む我が国農業と急激に変貌しつつあるアジア諸国の農業とを対比しつつ、稲作用機械として独自の発展を遂げてきた我が国の農業機械、さらには性能および安全評価制度等のアジア地域への適応性を検証するとともに、我が国における農業機械研究の方向性を議論する場を提供することを当面の活動内容としています。

そこで、今回はH26年5月の部会キックオフセッションの議題の続編として、アジア農業と農業機械化をテーマにさらに会員の皆さんと議論していきたいと考えます。基調講演では、農業分野のアジア情勢分析と他産業を含めた海外展開の優良事例のご紹介、ならびに日本が有する農業機械の貢献の可能性についてそれぞれ話題提供いただきます。引き続き、第二部では稲作用機械の国際比較の観点で、農業機械メーカ4社より水稲作におけるトラクタ及び作業機（耕うん、代かき）、田植機、コンバイン、乾燥調製機等を対象に、国内向け機械とアジア向け機械のニーズに対応した構造、機能、サポート等の相違等について情報提供いただきます。

産官学の垣根を越えて、多数のご参加をお待ちしております。

プログラム：

13:30 開会挨拶 農業機械部会 部会長
(独) 農研機構 西村 洋 氏

基調講演

13:40 アセアン地域の日系企業動向とミャンマー農業プロジェクトの事例紹介
(独) 日本貿易振興機構 石川宗範 氏

14:15 途上国での日本の農業機械・技術の貢献の可能性
アイ・シー・ネット (株) 古市信吾 氏

14:50 休憩

第二部

稲作用機械の国際比較 (特にアジア地域を対象として)

15:00 稲作市場における、トラクタ及び作業機の内外比較
(株) クボタ 山地一平 氏

15:30 コンバインにおける海外展開について
ヤンマー (株) 正野潤一 氏

16:00 日本の田植機のアジア稲作地域への展開について
井関農機 (株) 塩崎孝秀 氏

16:30 農と食を巡る情勢と米ポストハーベスト技術
(株) サタケ 水野英則 氏

総合討議

座長 九州大学 井上 英二 氏

17:00 国際比較からみた稲作用機械の今後の展開と研究方向

17:30 閉会の辞

◆ プログラムは、講師、会場の都合により予告なく変更になる場合があります。

問い合わせ先：

農業機械部会 幹事 山崎

(独) 農研機構 生研センター

TEL (直通) : 048-654-7108、FAX : 048-654-7135

メール : nogyo-kikai-bukai@ml.affrc.go.jp